

「叔母の幸せ」

田中 紀子

私の叔母は昨年94歳で亡くなりました。今では100歳を超える人も多くなりましたが、それでも長生きだったと思います。そんな叔母の口癖は、「幸せ幸せ」と、「あなた方のおかげで」でした。もう危ないと聞いて、最後にお見舞いに行った時も意識がはっきりしないのに、「叔母さん」と声をかけた私にふっと目を開け、小さな声でしたが「幸せ幸せ」と言ってくれました。

そんな叔母は娘夫婦と暮らしていましたが、82歳の頃から認知症を発症し始めました。いろいろなことを徐々に忘れるようになり、娘のこともわからなくなりました。そんな頃、不安で眠れない叔母は娘に、「私の人生どんなふうやったんやろ？」と聞いたそうです。娘が「お母さんはね、結婚して私が生まれ、そして孫もいるのよ。」と答えると、叔母は「じゃあ、私は幸せだったんやね。」と言って、話が終わると安心したように眠りについたようです。この会話はしばらくの間、毎晩続いたといえます。

その後叔母は家族はもちろん、通っていたデイサービスや病院の人たち、そしてたまに会う私たちと言葉を交わすたびに、「幸せ幸せ」、「あなた方のおかげで」とニコニコした顔で話すようになりました。

一般に認知症になることは不幸だと思われれます。認知症を発症したことは、叔母にとっても家族にとっても辛いことだったと思います。でも叔母は決して不幸ではなかったと思えるのです。

私も叔母を思うたびに、あの言葉と笑顔を思い出し、幸せを感じます。

「叔母さん、有難うございました。」